

審議会の要旨記録

会議の名称	令和6年度 第4回松伏町子ども・子育て支援審議会
開催日時	令和7年1月21日(火) 14時00分～15時20分
開催場所	松伏町役場本庁舎3階 第二会議室
出席者氏名	<p>委員：7名 若盛(正)会長、竹森副会長、石井委員、今井委員、宮本委員、 小熊委員、若盛(清)委員</p> <p>事務局：5名 桐課長、川尻主幹、齋藤主査、鳥井主査 株環境総合研究所：鈴木</p>
会議の議題	<p>1.開会 2.会長あいさつ 3.議事 (1) 松伏町第3期子ども・子育て支援事業計画(素案)への意見募集の結果報告について (2) 松伏町第3期子ども・子育て支援事業計画の確定について (3) 答申の案について (4) 利用定員について 4.その他 5.閉会</p>
会議資料の内容	<p>《配布資料》</p> <p>【資料1-1】松伏町第3期子ども・子育て支援事業計画(素案)への意見募集の結果について</p> <p>【資料1-2】松伏町第3期子ども・子育て支援事業計画(素案)へのご意見・ご提案の内容と回答・修正について</p> <p>【資料2】松伏町第3期子ども・子育て支援事業計画(最終案)</p> <p>【資料3】松伏町子ども・子育て支援事業計画について(答申案)</p> <p>【資料4】令和7年度の教育・保育施設 利用定員について</p>

<p>委員会における議事の経過及び発言の要旨</p>	<p>1. 開会</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>事務局</p> <p>(1) 松伏町第3期子ども・子育て支援事業計画（素案）への意見募集の結果報告について説明。</p> <p>1件のご意見あり。松伏町子ども会の再開を希望。松伏町子ども会育成会連絡協議会（松子連）としては引き続き様々なイベントを検討、実施する。また、今回の意見の趣旨を踏まえ、活動の充実等の施策を追加する。意見募集中の町ホームページへのアクセス件数は1126件であった。</p> <p>若盛会長</p> <p>皆様のご意見を伺いながら、是非かのご判断をいただきたい。ご賛同いただける方は挙手をお願いしたい。</p> <p>質疑なし</p> <p>事務局</p> <p>(2) 松伏町第3期子ども・子育て支援事業計画の確定について追加・変更点を説明。</p> <p>若盛会長</p> <p>保健センターの建て替えは行うのか。</p> <p>事務局</p> <p>確定ではないが、移転またはその場で建て替えるか検討中である。まだ建設の予算は議会で承認されていないが、設計は進んでいる状態である。新市街地整備課の立地適正化計画と整合性をとるために追加した内容である。</p> <p>若盛会長</p> <p>こどもたちは日々育っているので限りなく早くしていただきたい。目標をどこに置くかにより、この町が消滅するのか存続していくのか微妙な方向性が決まってしまう。こどもたちのバックアップは行政がしっかりと計画を立て、その実現に向かって予算を組み立て、議会で審議をし、最優先順位で地域の子ども・子育て支援事業に取り組んでいく形であってほしい。国は質の高い教育を実施できるように動いている。松伏町は見通しが立っていないので心配をしている。財源を増やすためには様々な背景があるが、次の時代を担う子どもたちのための保健センターは早急に建設してほしい。</p> <p>事務局</p> <p>令和6年4月1日から子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点を一緒にして、こども家庭センターを作るよう国から指示があった。保健センターが建設できた暁には、別々で行っている仕事をこども家庭センターとして一括でまとめる予定である。保健センター</p>
----------------------------	---

内にこども家庭センターを作り、母子保健事業と児童福祉事業の両方を担っていただく。

事務局

(3) 松伏町子ども・子育て支援事業計画（答申案）について説明

若盛会長

文書番号の表記をわかりやすくしてほしい。担当課の記号はなくてもよいのではないか。町民が理解できるのか違和感を覚える。

事務局

日付のみの表記でも文書はが特定できるので、担当課の記号はなくても特に差し障りはないので計画の中での示し方は検討する。

若盛会長

せっかくの機会なのでそれぞれの立場でご意見やご感想、今後のことについて想いをお聞かせいただけるとありがたい。

石井委員

人口比では少ないのかもしれないが、パブコメ中の計画へのアクセス数が1,000件を超えたとのことで、町民から意見もいただけてよかったと思う。

宮本委員

他市のように子育てしやすい街として移住者を増やすなど早く手をうたないと、いずれ町がなくなってしまう。町を盛り上げる、こどもを増やしていく計画はあるのか。

事務局

72頁、地域の実情や課題に応じた少子化対策として記載している。今後は補助金を活用しながら見直しの際には追加していく考えである。

宮本委員

この内容（取組）は、どのような形で発信しているのか。

事務局

結婚新生活支援については町のホームページやX、広報紙に毎月掲載している。町内の不動産屋にもチラシを置き助成金のお知らせをしている。29歳以下を対象に引っ越し費用が60万円支給される事業の実績は予算の都合上、年間8件ほどである。結婚支援としてSAITAMA出会いサポートセンターには約50人が登録している。チラシ配布以外のアピール方法を考えている。

竹森副会長

答申の3に、相互の連携を強化するとあるが、小さな町だからできる新たな取組ができればいいと思う。ファミリーサポートのシステムも周知されていないので小学校の保護者や教員に向けてアピールしていきたい。小学校を通してコマーシャルすることもできると思うので協力したい。

今井委員

長期的に考えて、交通網の問題や子育てのための施設、給食費の問題も考えていくべきではないか。子育て支援事業、働く女性の立場などを総合的に判断していけるような計画であってほしい。予算がなければ頭を使えばいい。奮起を促したいと思う。

若盛（清）委員

この町のいいところをもっと活用しながら発信していくということがまだ少ないと思う。職員だけでなく町民になげかけ、アイデアができればいいと思う。町のホームページを開けて読むということは難しいと思うのでLINEを活用するなどし、若い人たちに発信していけるか考えなければいけないと思う。

小熊委員

働く保護者は増えているのに学童を利用する児童が減っている。保育料がかかることが理由のひとつではないか。支援があるともっと気軽に活用してもらえないのではないか。職員の高齢化や資質の向上、ICTを使った入退室の管理、お弁当のネット注文などこれからの時代にあった形にしていく方法があるのではと感じている。小さい町だからこそできる連携の良さがあり、トラブルに対応できることもアピール材料になるのではと思う。

若盛会長

小さい町だからこそできることが色々あるはずだと思っている。町に対しての要望もこの審議会で発信できる立場にあるので、今の時間、皆様からご意見をいただく形とした。事務局の方で改めて検討していただければと思う。

事務局

（４）令和7年度の教育・保育施設 利用定員について説明

石井委員

人数の変更は町からの要望なのか。

事務局

今回の計画上の85頁に掲載している、第3期子ども・子育て支援事業計画の量の見込みを基に人数を推計し、定員を設定している。

石井委員

1号認定はまだまだ減っていくということか。

事務局

1号認定は減っていく可能性が高いと思われる。子どもの数も減っており、保育ニーズの方が高く、共働き世帯も増えている。昔のようにはいかなくなってきていると認識している。

石井委員

認可定員は変わらないのか。

事務局

	<p>認可定員は、建物の大きさや敷地面積によって決まるものなので変わっていない。 ちなみに利用定員に関しては、こどもの人数や出生率に合わせて増減する。</p> <p>若盛会長 町内の子どもたちの動向はどうか。</p> <p>宮本委員 大変な状況である。町内・町外から登園する子どもも減っている。</p> <p>若盛会長 町内で人口増は全くあり得ない。国内留学すらここでは受け入れられないのではないか。現場としてはかなり切羽詰まっているということだけは心にとどめておいていただきたい。 ご意見がなければ承認させていただきたい。</p> <p>事務局 以上をもって令和6年度第4回子ども・子育て支援審議会を終了する。</p> <p>4. その他 事務局 次回日程は未定。こども計画の予算が議会で議決されたら、また同じような形でニーズ調査をし、こども計画を作成する。</p> <p>5. 閉会</p>
--	--